



今月の植物



何の花? こたえは↓↓↓

さくら新聞

令和5年7月1日発行
 石神井町さくら保育園
 〒177-0041
 練馬区石神井町7-25-45
 TEL 3997-0070
 FAX 3997-0972



～笑顔de共育で～



月の主題: 楽しい夏を過ごそう
 今月の保育のねらい: 七夕、泥んこあそびや水あそびなど、夏のあそびを十分に楽しむ

森の中で子どもの成長を考える



6月末に、奥多摩の森に有志の職員と一緒に『森の研修』に出かけてきました。東京都の6%は森林で、その多くが戦後に植林されたスギ・ヒノキの人工林。人工林は人の手によって植えられたので、最後まで人が責任をもって管理しなければ山は荒廃してしまうと教えていただきました。今回訪れた森は「森とくらし、木とあそぶ」をコンセプトに感性を刺激し、自然を感じ、学べる空間でした。上の写真は、間伐を行ったことで、森におひさまの光が差し込むようになった『空開け』の状態です。

人がつくった森は、数年ごとに間伐や枝打ちを行い、手入れすることで光を求めて枝葉が伸び、木の根がしっかりと張り、光が差し込むことで周囲に植物が生い茂り、動物の棲みかとなり水を貯える「緑のダム」となります。結果、土砂災害、洪水を防ぎ、私たちの生活に欠かせない水と大地を守ることにつながるのだそうです。右の写真は、定期的の間伐をしている森(右)と敢えて間伐を入れていない森(左)を見比べられるようにしている空間とのこと。間伐の大切さが分かったうえで、実際に間伐体験もさせていただきました。間伐材というと木として価値が低いという印象がありますが40年以上育ってきた木の命をただ切り倒すだけでなく、右上図のように、木の命をいかせるものにしたという思いも、むくむくわいてきました。



さらに、1日森で過ごして、自然の中で遊ぶ中で、子どもたちにも『空あけ』の状態を整えていく必要があると感じました。子ども自身が興味関心のあることに気持ちを傾けられる『伸びていこうとするスペース』を環境として整えていきたいと思いました。



さて、間伐した場所には、切株が残ります。切株の年輪を見ると、『ナルニア国

ものがたり』の著者、C・S・ルイスの言葉を思い出します。

7月 行事予定



日	曜日	内容
1	土	育児講座
3	月	避難訓練
4	火	身体計測(幼児)
5	水	身体計測(乳児)
7	金	七夕
10	月	笹送り
11	火	おはなし会(幼児)
13	木	アートくらぶ(5歳児クラス)
19	水	歯科指導(4・5歳児クラス) ニコニコフォト撮影日
26	水	0歳児健診



「人間の成長には二つのタイプがあって、一つは変化してゆく人だといいます。幼年時代という着物を脱ぎ捨て、少年時代という着物をき、少年時代を脱ぎ捨て、青年時代という着物をきそれを脱ぎ捨てて、大人の着物をきる。そういうふうの一つのものを脱ぎ捨てて、一つ何かを身につけてゆくという、いわば脱皮していくタイプの人達がほとんどだ。つまり大人になった時は、幼年時代も少年時代も青年時代も、みんな捨ててしまって、ただ現代大人という人達。ところが、これとは別のタイプの成長をする人達は、木の年輪のように幼年時代の上に少年時代を、少年時代の上に青年時代を、青年時代の上に大人をというふうに、次から次へ自分の体験を積み重ねてゆくという成長をしてゆくという型の成長をしてゆく。この後者こそが、本当の成長ではないのか。私達は、変化するのではなく、変わらないものを持ちながら新しいものを積み重ねていって、自分の世界をどんどん広げてゆく。そういうことが大切なのではないだろうか」子どもの豊かな育ちのために私たち大人に何ができるだろうかと考える1日となりました。(文責:有馬 聡子)



※絵本貸出(全園児)

貸出:毎週(木) 返却:(月)

*ゲーム貸出(5歳児クラス)

貸出:毎週(水)(木)(金) 返却:(火)